文字列関数で得失点差を計算する

それでは、まず「試合結果」のシートのデータをもとに、「得失点差」のシートに、試合ごとの得失点差を表示する表を 作りましょう。

1. ワークシートの見出しから、「得失点差」をクリック

文字を取り出す

「試合結果」のシートでは、「3 2」のように、得失点と勝敗の記号が同じセルに入力されています。まず、セルから得 失点の数字を取り出しましょう。

文字を取り出すには、いくつかの方法があります。ここでは、LEFT関数とRIGHT関数を使います。

LEFT (文字列の左側から指定した数の文字を返す)

- ○書式: LEFT(文字列, 文字数)
- 引数:文字列:文字を取り出したい文字列やセル
- ○引数:文字数:取り出したい文字数(左側から)
- ○例:A10セルの文字列を3文字左から取り出す

=LEFT(A10,3)

RIGHT (文字列の右側から指定した数の文字を返す)

- ○書式: LEFT(文字列, 文字数)
- 引数: 文字列: 文字を取り出したい文字列やセル
- 引数: 文字数: 取り出したい文字数(右側から)
- ○例:B2セルの文字列を2文字右から取り出す

=**RIGHT**(B2,2)

では、次のようにして、関数の機能を試してみましょう。

- 1. B2セルをクリック
- 2. 数式バーの「関数の挿入」ボタンをクリック

3. 利用する関数の選択

- ○「関数の分類」から「文字列操作」を選択
- ○「関数名」から「LEFT」を選択
- ○「OK」ボタンをクリック

関数の挿入	? ×
関数の検索(S):	
何がしたいかを簡単に入力して、【検索開始】 をクリックしてく ださい。	検索開始(<u>G</u>)
関数の分類(②): 文字列排作	
関数名(N):	
FINDB FDXED	-
LEN LENB	-
LEFT(文字列文字数) 文字列の先聞から指定した数の文字を返します。半角と全角 字を1として処理します。	の区別なく、1 文
<u>この開設のヘルプ</u> のK	キャンセル

4. 引数の設定

- ○「文字列」の入力欄をクリックし、「試合結果」のシートの見出しをクリックした後、B2セルをクリック
 (自動的に「試合結果!B2」と入力される)
- ○「文字数」の入力欄をクリックし、「1」と入力
- ○「OK」ボタンをクリック

関数の引き	数		?×				
LEFT	文字列 文字数	▼ = 文字列 ▼ = 数値					
ー 文字列の先頭から指定した数の文字を返します。半角と全角の区別なく、1 文字を 1 として処 理します。 文字列 には取り出したい文字を含む文字列を指定します。							
数式の結	課 = <u>のヘルプ(H)</u>	OK	キャンセル				

「1」という文字を取り出すことができましたか? RIGHT関数も使えるか同じように試してみましょう。

_PICHT/試合結甲IB2 1)	
	1
	1

関数を組み合わせる

文字を取り出しただけでは、得失点差をもとめることはできません。

得失点差の計算は次のようになります。

得失点差 = 得点 - 失点

LEFT関数で求める「得点」と、RIGHT関数で求める「失点」を使って、計算式を組み立てましょう。

LEFT関数・RIGHT関数を使うと、鹿島アントラーズの第1節の得失点差を求める計算式は、次のようになります。

=LEFT(試合結果!B2,1)-RIGHT(試合結果!B2,1)

得失点差が計算できましたか?

計算ができたら、計算式を他のセルにコピーしましょう。<u>第6回の内容</u>を参考に、「**オートフィル**」機能を使って、B2~ AE19セルに計算式を、コピーしましょう。

	B2 👻	fx	=LEFT(試合結果:B2,1)-RIGHT(試合結果:B2,1)				
	A		В	С	D	E	F
1			第1 節	第2節	第3節	第4節	第5節
2	鹿島アントラーズ	- [1	-1	-1	1	
3	浦美田レッルブ		1	5	1	3	

得失点差の合計を求める

節ごとの得失点差がわかったので、これを使って、チームごとの得失点差の合計を求めましょう。

AF1セルに「合計」と入力してください。

AF2~AF19セルに、チームごとの得失点差の合計を計算してください。「オートSUM」機能やSUM関数を使って、合計を計 算してください。SUM関数は、関数の分類の中の「数学/三角」にあります。自分で使い方を調べてみましょう。

<u>次へ</u>進んでください。

}}